

HIO YOG

教区新報

2012.1 177号

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

六千四百三十四人が亡くなった阪神・淡路大震災から十七年目の一月十七日、神戸別院にて『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要「いのち」を考』となった。

『いのち』はなぜ大切なのか 『いのち』を考える研修会

午後一時半から始まった法要には遠近各地より参拝を頂き、満堂の本堂に参拝者の焼香が続いた。法要に続き、堀正昭師



物故者に思いを馳せる

「理屈ではない、いのちは大切なんだ」という事を次の世代に私達が伝えていかなければならない大切な事なんじゃないか、という事を、感じさせていただきました。

緊急非常時になってからでは遅い。日頃から大切なんだという事を今日お聞かせいただきました。命が危なくなってきたら、では遅いかもありません。今、私達が仏様の前で、何が一番大切なのか、という事を改めてい

友人から来た今年の年賀状にこんな一文があった。「昨年一年間、いろいろな出逢いと別れがありました。別れた悲しみよりも、その人と出逢えた事を喜びたい。」

◆「積尊は人生の真相を一切皆苦」と説き、その一つを「愛別離苦(愛するものと別れ離れる苦しみ)」と示された。人は出逢えば必ず別れの悲しみがともなうというのである。◆「人が一生のうちで出逢い知り合うことのできる人の数はおよそ三千人。」ある書でこんな一節を目にした。現在、世界人口は七〇億人に到達したと推計されており、このうち日本の人口は、一億二千八百万人余りである。「おなじ地球上で時空を共に生きるこれだけ多くの人々のうち、私の人生で出逢えるのは、わずか三千人なのかな。」そう思うと、その人との出逢いが如何に希有で尊いことであつたかが知れるのである。◆「出逢いを喜ぶ。」私の今後の人生の目標である。

教区だより 2月-3月

2月

2(木)	第10回布教大会	本堂	終日
3(金)	アブサラス練習		13:30
4(土)	第一土曜仏教講座(小澤輝郎氏 元神戸龍谷中学校校長)		13:30
7(火)	別院仏婦定例法座(赤井智顕師 阪神西組)		13:30
8(水)	第3連区青年布教使研修会(9日まで)		終日
10(金)	アブサラス練習		13:30
	仏婦委員総会		10:30
12(日)	連研履修者研修会		10:30
13(月)	組長会本山参拝	本山	
14(火)	青僧会役員会		16:00
15(水)	コーラス練習会		10:00
	常例法座(16日まで)	藤井雅峰師 朝来組	13:30
21(火)	平成23年度布教使研修会		13:00
23(木)	教区会議員研修会(24日まで)	鹿児島	
24(金)	アブサラス練習		13:30

25(土)	まことの保育研修会(連続研修)	13:30
26(日)	仏社単位会長・寺院代表研修会	10:30
28(火)	講師団研修会	10:30
	御同朋の研修会	13:00

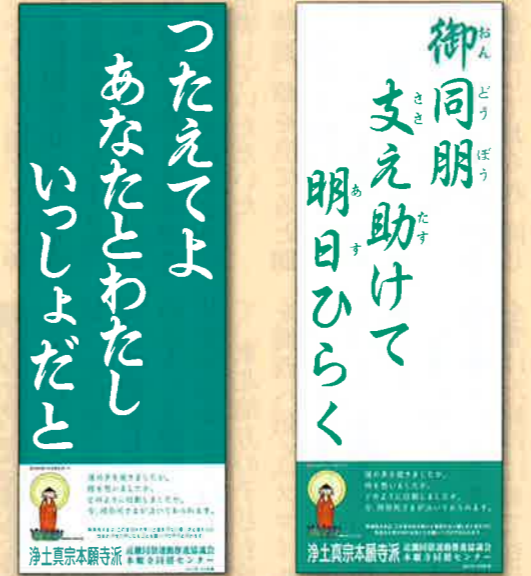
3月

1(木)	コーラスフェスティバル	終日
2(金)	アブサラス練習	13:30
3(土)	第一土曜仏教講座(岩谷教授 教学伝道研究センター元常任研究員)	13:30
4(日)	第27回若婦人のつどい	終日
7(水)	寺婦委員総会	10:30
	別院仏婦定例法座(谷川誠師 神戸西組)	
8(木)	布教同志会神戸大会	9:00
11(日)	中仏つどい会	
15(木)	コーラス練習会	10:00
	常例法座(16日まで)	13:30
16(金)	常例法座	13:30
	アブサラス練習	13:30
19(月)	神戸別院春季彼岸会(21日まで)	13:30
23(金)	第4回各種法座出講予定者事前学習会	12:30

『御同朋の社会をめざして』 近同推標語ポスター

「差別・被差別からの解放」を願い、どんな人権問題も決して見逃さない、真の意味での念仏者としての生き方を指すことを目的とした同朋運動。

この同朋運動の推進と実践を目的に近畿六教区が連携して結成された、近畿同朋運動推進協議会(近同推)主催より、この度全国から公募により選ばれた二つの標語



若婦人のつどい案内

三月四日(日)、神戸別院において『第二十七回若婦人のつどい』が開催されますので、ご案内いたします。

本つどいは、教区キッズサンガ事業と連携して開催されるものであり、親子での参加者を主な対象として開催いたします。

午前は、鹿多証道師(加古川組妙証寺)によるご法話が、午後は安藤聖一師(人形遣い/新潟教区三条組福勝寺)による『人形説き』が行われます。ぜひ皆様、親子一緒に



人形説きの様子(安藤氏)

敬 弔

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します

堀 孝文(揖龍東組西法寺前住職) 平成二十三年十二月二十日七十九歳

森 哲朗(岡山北組法眼寺住職) 平成二十三年十二月二十九日六十七歳

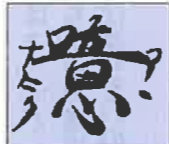
武田しづ子(阪神東組善念寺前々坊守) 平成二十四年一月五日八十四歳

磐城昌子(赤穂南組法光寺前坊守) 平成二十四年一月十五日八十八歳

寺谷妙子(姫路西組真光寺坊守) 平成二十四年一月十七日八十七歳

柴田光雄(多紀組法誓寺住職) 平成二十四年一月十八日六十七歳

【敬称略】
一月二十日現在



友人から来た今年の年賀状にこんな一文があった。「昨年一年間、いろいろな出逢いと別れがありました。別れた悲しみよりも、その人と出逢えた事を喜びたい。」

『いのち』を考える研修会

高砂春美氏講演

一・二七の違

東日本大震災の現場にいて色んな人の話をお聞きしたのですけれども、都市型の阪神淡路大震災と東日本大震災では、ちよつと意味合いが違います。

今回の震災は殆どの被災地は海岸べりであり、そこが1m近く地盤沈下して、危険地帯という事で何もできない状況になっており、そういった所で復興は遅れているという感覚があります。

阪神淡路大震災の時は二カ月で復興案が出ました。そして、皆さんがその復興案に対して色んな調整を含めながら、復興に当たってきた訳なんですけれども、東日本大震災の場合、特に気仙沼なんかは非常に対応が遅れており、やつと復興案が出たというのが九月の終わりでした。

経験を伝える

色んな人達の話の聞きますと、やはりある程度「津波が有る」という事は、知っておられる方が結構おられる。

特に小さな集落、漁港といった所は、昔からそ

ういった事がある、という事で逃げる手段が自分達で分かっている訳です。

今回犠牲になつていいる人達というのは、そういう事を知らない人達、あるいは、堤防や防風林が有つて、海が見えない状態の所に突っ込んでいった人達。

知つていいる人は突っ込んで行かないんですけど、知らない人は皆、突っ込んで行つてしまふ。そういう事も起きています。

やはり、その地区の年寄りの話を聞くと、明治時代から何度となく津波や高潮に襲われたという経験を持つていいるものから、そういったものが伝わつていっている。

ところが、市街地である気仙沼港になりますと、そういったものが都会化されてしまい、コミュニティも崩れてしまつていいる。その中で、伝わつていかなければいけない事が伝わつていらない訳です。

だから、ここにおいて津波が来たらどこに逃げた

生死を分けた

らいいのか、といった事が皆さん判らない。

車で移動するんですけど、車を捨てて山に逃げた人は助かつていいるんです。車で移動し、車が詰まつて動けなくなつて津波に流されて亡くなつた人が殆どなんです。

避難所の方々の話を聞くと、どうしても、私が助けられなかつた。車を捨てて高台に上がつて助かつて人達が、見ていいる訳です。流されていいるのを。車のクラクションを鳴らしながら流されていいる状態も見ていいるし、そのまま流されていいる人も見ていいる訳です。

その人の話を聞くと四十九日が終わるまで寝れなかつた。それが頭に付いて寝れなかつたとおつしやつておられました。

ちよつとしたことで、命が助かる、助からない。物を取りに行つただけで、犠牲になつていいます。家族を助けに行つた人が一緒に流されてしまふ。

ちよつとしたことで命が助かる、助からない。物を取りに行つただけで、犠牲になつていいます。家族を助けに行つた人が一緒に流されてしまふ。

それは、やはり自分達で知るしかないんです。

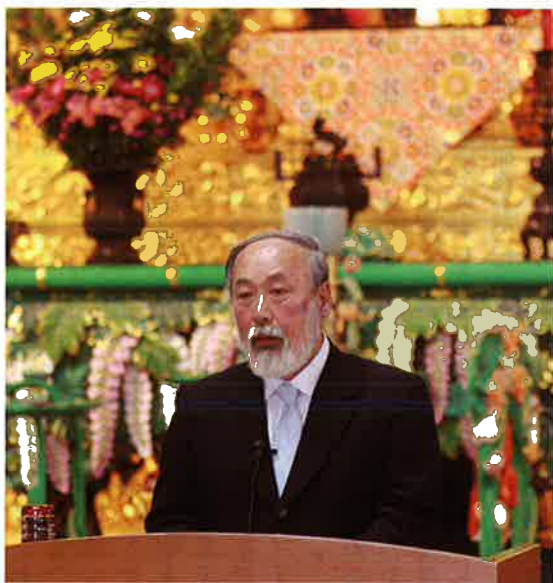
いのちを守る

助かるかどうかが別れた。そういった話を沢山聞いてきました。

本当にいのちをまもるという為に大切なのは、やつぱり、自分が住んでいいる所の事を良く知ることでしょう。

ここにはこういう危険が有るんだ、ここにはこういう物があるから危険なんです、ここには逃げたら駄目ですよ、という所が沢山有る訳なんです。

それは、やはり自分達で知るしかないんです。



高砂春美氏

美しい莊嚴のために 〜仏華研修会開催〜



模範の仏華
(作：弓場洋子師)

三月十八日、別院ホールにて、寺院の本堂等に供える仏華について、学びを深める事を目的に、『仏華研修会(特法協・寺婦連盟主催)』が開催された。

講師には、池坊華道教授の弓場洋子師(奈良教区三山組東林寺)をお迎えし、前半は仏華の基礎や仏華の歴史の変遷、供華の種類と方法など、仏華についての総合的な講義が行われ、後半は実際に仏華を立てながらの実習となった。



先生が直接指導される

実習は、講師の直接的指導を交えながら進められ、初めて仏華を立てる

方にも分かり易い、実践的なものとなった。普段は手伝いという形

で、一から仏華を立てるといいう、井上陽子さん(神戸東祖福正寺)は、「先生が会場を周つて下さり、初心者にも分かり易い様、要点を押さえながら上手く立てられるように指導していただいた。華道、華を立てると聞くのと敷居が高いイメージがあつたが、先生のおかげで、緊張せずに和やかに学ぶことが出来た。

また、様々な年代の方が参加しておられ、同じような年代の方もおられたので、会場の雰囲気に入り易かつた。

仏華について詳しく書かれたプリントも頂いたので、教えていただいたことを思い出し、確認しながら少しづつ家でも練習しようと思つたと話した。

仙台の子どもを招いて 〜スマイルキッズ〜

十二月二十三(二十五)日にかけて、東日本大震災にて被災した子ども達にストレス発散や、心身のリフレッシュを目的として、東北地方の子ども達を関西へ招く「スマイルキッズ」が、仙台市より五名の子ども達を招いて開催された。

行事の中心は、阪神・淡路大震災にて大きな被害を受けた神戸に来てもらい、震災をきっかけとして、以来、沢山の人の協力で続けられてきた「兵庫教区震災支援報恩講子ども集い」に参加、多くの子ども達と出会い、楽しいひとときを過ごしてもらうことである。

今回参加した子ども達は、皆関西に来る事が初めてであり、初日は、ユニバーサルスタジオジャパン(USJ)にて、アトラクションやパレードを歩き疲れるほど楽しみ、USJのホテルに宿泊。

二日目は、神戸別院での「報恩講子ども集い」に参加。午前中の式典、お

楽しみ、午後の夕食や、午後のオカリナ演奏、マジックショー、ゲーム大会等、盛りだくさんの内容を満喫。夕食後は神戸散策をし、夜の集いで遅くまで沢山の話を語り合い、別院宿泊となった。最終日は、吉本新喜劇を見学、昼食後、伊丹空港より仙台への帰路についた。



笑顔が弾けた懇親会(別院食堂)

参加の子ども達は「こんな子ども集いに参加したのは初めて。ゲームが楽しかった」USJが楽しかった。筋肉痛になるくらい歩いた」と話した。

また、引率の堀川教信氏(甘露寺住職/仙台市)、及川敏幸氏(甘露寺総代)は「子どもから『飽きた』という言葉が出なかつた。飽きる暇が無いほど動いた。疲れるぐらいいつぱら楽しめた証拠。避難時、子どもにとつては『飽きる』という程時間があつた。避難時は、遊ぶ、楽しく過ごすという時間が無く、無

他人が教えてくれる、助けてくれるという訳ではない。自分のいのちを自分で守らなければいけないというのが、今回よく色んな話を聞いた中でものすごく感じました。

色んな事が知識として有るんですけど、都会化するとそういう色んな事、危険な事も教わってきたはずなんですけれども、伝わつていかな

だから守るのは自分しかいないんですね。他人は守つてくれない、いのちは自分達で守らなければならぬんです。

為に時間だけが過ぎ、子どもにとつて飽き、つまらないというストレスがあつた。地震・津波の壊滅的被害と放射能の被害、他諸々の風評被害など、多くの困難な状況にある中、この度神戸に来て、また呼んでもらつて有り難かつた。

東北は浄土真宗の寺院は少ないが、そんな中、今回こんな形で交流が出来た。これをきっかけにこれからも繋がりたい。またこんな形で交流ができたら良いし、東北にもぜひ来てくださ」と語つた。